

●発行日：2017年4月15日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

||||| 発行:教材出版 学林舎



教育の行き先

2017年度中学入試総括

2017年度は、関西圏では1月14日の統一入試日を、首都圏では2月1日の主要校の入試日を皮切りに、中学入試時期を迎えました。

関西圏（二府四県）の延べ応募者数は昨年度より 893 人増加して 55,696 人、統一入試日の 1 月 14 日午前のみの応募者数は昨年度より 120 人減少し 17,657 人となりました。応募率は 9.71%（応募者を二府四県の公立小学校在籍者で割って算出）となり、三年連続で上昇していますが、受験者数の実態に近い統一入試日の応募者数は、少子化に伴い二年連続で減少しています。

一方、首都圏（一都三県）の２月１日午前の受験者数は、昨年度より４３２人増加して３７，０１７人、応募率は１３．０％（応募者を一都三県の公立小学校在籍者で割って算出）となりました。東京都と神奈川県私立中学を第一志望とする受験者のほとんどが２月１日にいずれかの学校を受験するため、首都圏の私立中学受験者の実数も増加したと考えられます。

今春の入試で注目したいのは、従来の2～4科目型入試に加えて新たな入試形態を導入した学校が増加した点です。首都圏では英語の選択入試を行った学校が95校、適性検査型入試を行った学校が120校にのびました。2020年度からの大学入試改革以降の大学入試で求められる「思考力・判断力・表現力」、さらに「創造力・協働力・コミュニケーション力」につながるもので、早くも中学入試に反映された動きと考えられます。関西圏では、公立中学一貫校の人気の高まり、近隣に所在する私立中学で適性検査型入試が導入されて

います。今年の 4 月に開校する大阪府立富田林中学校は定員 120 人に対し 603 人の応募（倍率 5.03 倍）があり、京都府立洛北高等学校附属中学校（応募倍率 4.71 倍）、京都市立西京高等学校附属中学校（応募倍率 4.66 倍）を上回る人気となりました。創設 4 年目を迎える神戸大学附属中等教育学校も受験者 834 人に対し合格者 167 人（実質倍率 4.99 倍）となりました。これらの学校との併願を視野に、上宮太子中学校、龍谷大学附属平安中学校、親和中学校などで適性検査型入試が導入されました。また、西大和学園中学校では、21 世紀型特色入試（各種検定の取得者や各種コンクールの受賞者、入賞者を対象とする専願入試）と英語重視型入試が導入されるなど、やはり 2020 年度以降の大学入試改革を意識した、新たな入試形態が導入されたものと考えられます。

今後、いわゆる伝統校、最難関校では大きく入試形態を変更することは少ないと思われますが、各教科の出題内容は、今以上に思考力を重視したものになると予想されます。中堅校においては、いかに優秀な生徒を確保するかという視点からも、すべての入試形態を変更するのではなく、前述のような適性検査型入試、ＡＯ入試を部分的に導入する学校が増えることが予想されます。ただし、一芸一能だけを求めるのではなく、基礎学力の判定や、総合的な人間性、教育理念の理解などを含めて評価されるという点には留意しておきたいところです。

今春はエコ入試の普及で、Web 出願を採用した学校も増加しました。また、共学化に踏み切り、人気上昇した学校もあります。私立中学では少子化に伴い、さまざまなニーズにいち早く対応している学校には人気が集まり、伝統校であっても対応が遅ければ人気を落とすという二極化が進んでいます。それぞれの学校の特色に加え、独自の学校改革や新たな取り組みに注目が集まりそうです。(文／学林舎編集部)

教育の行き先

2017年度高校入試総括

2017 年度の高校入試が終了し、新高校 1 年生の新たな生活がスタートしています。今年度の東京都、神奈川県、大阪府の高校入試の傾向について調査した結果をまとめ、昨年度と比べてどのように変化したのか、また今後どのように変化していくのかを分析します。

□公立高校・私立高校受験者割合

まずは、公立高校および私立高校の受験者割合についてまとめます。2017 年度の高校入試において、東京都では公立中学校卒業者の約 58%、神奈川県では約 76%、大阪府では約 67%が公立高校全日制課程を受験しています。3 都府県とも、昨年度より志願者の割合は増加していました。私立高校においては、東京都で約 75% (1 月 27 日正午時点)、神奈川県で約 70% (2 月 1 日 15 時時点)、大阪府で約 101% (2 月 6 日正午時点) が応募しています。大阪府の私立高校受験者の割合は 100%を超えており、複数の私立高校を受験する人が多いことが分かります。公立高校定時制課程の志願者については、東京都で約 4%、神奈川県で約 3%、大阪府で約 1%となっています。

□公立高校入試問題の分析

次に、公立高校入試問題の傾向について分析します。

○英語…東京都では長文の穴埋め問題として自由英作文が出題され、読解力と記述力が試されました。神奈川県では資料の読み取りを伴った長文問題が出されました。大阪府ではリスニングにおいて、英文を読み取った上で聞き取り、内容の理解を求める問題が出されました。どの都府県も、単なる記述や聞き取りだけではなく、複数の力を活用する問題が出されています。

○数学…3 都府県とも記述で解答する証明問題が出されています。東京都は特に問題文が長い傾向にあり、問題を解くためには文章を読み取る力が必要です。

○国語…東京都では 700 字程度の長めの論説文が出され、知識問題が減少しました。神奈川県では会話文の内容と資料を読み取り整理する記述問題が出されており、大阪府では文章自体は平易ですが、正確に内容を読み解く力が求められる内容となっています。

○理科…3 都府県とも、実験や観察の結果から考察する問題が出され、科学的・論理的に考える力が問われました。教科書の範囲内ではありますが、それらを理解し、活用する力が必要です。

○社会…3 都府県とも、知識偏重の問題ではなく、資料を読み取る問題が出されており、知識を身につけた上で資料を活用する力が求められています。

□今後の高校入試について

2020 年度に行われる大学入試制度改革では、従来の「知識・技能」を確認する問題だけではなく、「知識・技能を活用する」問題が出される「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」が導入されます。この改革では、「思考力・判断力・表現力」を総合的にみることを改革の主軸にしています。特に英語では、これまでの英語教育で身につけた「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の 4 技能を、総合的に評価するとしています。また、高校教育と大学教育の一体化(高大接続システム)を目指して、高校における教育が見直されようとしています。

これらの改革に向けて、高校入試でも「思考力・判断力・表現力」を問う問題が増加しているといえるでしょう。知識を蓄えるだけではなく、内容を理解し、様々な資料を読み取った上で、自分の意見を表現できる力が求められています。(文/学林舎編集部)

学習教育の行き先 算数どこでつまずく 「分数」

第1回、第2回に続いて、算数でつまずきやすいといわれている単元の内容を分析していきます。第3回は、「分数」です。

分数は第2学年から学習します。まずは、どの学年でどのような内容の「分数」を学習するのかを、簡単に紹介します。

第2学年では $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{4}$ といった簡単な分数を学習します。これまでは自然数しか知らなかった児童に、ものを半分や四半分にした大きさの表し方を教えるとともに、日常生活の中で分数を用いる能力を身につけさせることを目的としています。

第3学年では、分数の意味や表し方、同分母の分数(真分数)の加法・減法を学習します。等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数が用いられることや、分数の表し方について確実に身につけさせることを目的としています。また、分数の加法及び減法の意味について理解し、計算の仕方を考えられるようになることを目的としています。

第4学年以降では、分数の計算を学習します。

第4学年では、仮分数、帯分数を含めた同分母の分数の加法・減法を学習します。

第5学年では、異分母の分数の加法・減法と、乗数や除数が整数である場合の分数の乗法・除法を学習します。

第6学年では、乗数や除数が分数である場合の分数の乗法・除法を学習します。

では、分数はどこでつまずくのでしょうか。分数でつまずきやすいポイントとして挙げられるのは、「量分数と分割分数の混同」と「分数の概念の理解」と考えられます。

「量分数と分割分数の混同」とは、 $\frac{3}{5}m$ のように測定した量の大きさを表す分数と、あるものを5等分したうちの3つ分の大きさを表す $\frac{3}{5}$ の意味を混同してしまうことです。今回は、もうひとつのつまずきのポイ

ントと考えられる「分数の概念の理解」についてまとめます。

第3学年になると「わり算」を学習します。わり算は、複数あるものをいくつかに分けるという考え方です。一方、分数は1つのものを等しく分けるという考え方です。この「1」という数を分けるという概念が、児童にとっては難しいと考えられます。この概念を理解するには、1枚のピザを8等分したうちの3ピース分を分数で表すとどうなるかなど、目に見えるもので分数を体感することが重要になります。また、分数の概念を理解するには、図にかくことが有効です。このように、目に見えるもので体感したり、図にかいたりすることで、分数を視覚的に理解することができます。そして、最終的には自分で正しい図がかけられることが重要です。

分数の概念が理解できれば、分数の計算でもつまずくことは少なくなります。同分母の分数の加法である、 $\frac{1}{5} + \frac{2}{5}$ を計算する際にも、5等分したうちの1つ分と5等分したうちの2つ分を合わせるから、5等分したうちの3つ分となり、 $\frac{3}{5}$ になると考えることができます。また、異分母の分数の加法においても、通分という概念が抵抗なく理解できるようになります。

今回は分数について分析しました。分数が理解できていないと、小学算数だけでなく、中学数学においても、非常に苦勞することになります。計算のルールを覚えてしまうという考え方もありますが、まずは、分数の概念がしっかりと身につけることが大切です。

(文／学林舎編集部)

クロスロード crossroad

第 68 回 文／吉田 良治

大学進学と18年問題

4月から新しい年度となり、各教育機関でも新学期がはじまりました。そして新しく進学した新入生にとって、新たな人生のスタートとなります。今ある学びの機会を次へのステップになるよう、素晴らしい学生生活を送られることを願います。

さて、今日本は少子高齢化が進み、年々若い世代の人口が減少しています。それぞれの教育機関では生徒の確保が最大の課題となっています。特に地方では若者人口の減少が著しく、学校運営も危うくなるケースも増えています。そして来年には18年問題という、大学進学世代が一段と減少していく年となり、各大学では一人でも多くの受験生の獲得で躍起になっています。最も人口の多い東京都でも、都の推測で2025年の1,398万人をピークに、人口の減少は避けられないといわれています。しかし今、世界的に人口は増加の一途をたどり、2011年に70億人を突破し、今後も増加し続けます。1990年代末で60億人でしたので、10年ほどで10億人増加したことになります。2050年ごろには100億人に迫ると推移されています。

となると、日本の教育機関はこれまでのように、日本国内から生徒や学生を獲得するのではなく、海外からの留学生受け入れへシフトすることが、日本の教育機関の生き残る術となっていきます。

海外からの留学生の獲得をどのように進めるべきか、国内の受験生獲得とはまた違うアプローチが必要となります。日本では受験生の成績による偏差値ランキングというものが、受験生の進学先選択の目安の一つになりますが、海外の受験生にとっては学業評価も違い、偏差値ランキングは全く意味を持ちません。大

学なら世界的なランキング（イギリス・タイムズ紙や中国・上海交通大学など）がその目安となります。しかし、近年こうした世界大学ランキングにおいて、日本の大学の評価が下落し続け、アジアの中でも長年トップにあった東京大学は、この2年ほどはアジアナンバー1から脱落しています。世界トップクラスの大学進学においては、日本の難関大学であっても、滑り止めという位置づけになり、優秀な留学生を獲得することはできません。実際2015年の発表では、東京大学が外国人などを対象に開設している、秋入学の「教養学部英語コース（PEAK）」2014年度合格者のうち、7割が入学辞退しています。まずは世界の中での大学評価を高めるための取り組みが必要となっていきます。

そんな中、中国を中心に日本の大学を目指す若者が増加し始めています。特に東京大学などの難関国立大学、早稲田大学、慶應義塾大学など名門大学が人気となっています。日本の難関大学進学のための目的は、世界の超エリート大学を目指すのではなく、単純に大学卒業後日本で就職をするという、日本の大学進学で新たなニーズも出ています。そのため留学生の受験対策として留学生専門の予備校も増えつつあり、一時期大手予備校の撤退など、国内向けの大学受験産業の衰退が危惧されましたが、留学生へシフトすることで、大学受験産業の生き残りの光が見え始めています。あくまでも難関や名門大学向けに限ったものですが、今後留学生獲得を目的として、爆留学という日本の教育機関に新たなビジネスチャンスを生むことになっていきます。留学生ブームはあくまでも国内の上位にある、それも都心部の大学に限ったことなので、地方の大学や中堅以下の大学にとっては、爆留学の恩恵を受けなければ、依然として少子化による受験生獲得の厳しさは続いていきます。（つづく）

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。

全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog
<http://ameblo.jp/outside-the-box/>